

令和7年度 江戸川区立篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子 ○心豊かな子 ○じょうぶな子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○確かな学力をはぐくむ学校 ○豊かな心と健やかな体をはぐくむ学校 ○保護者・地域から信頼される学校 ○基礎・基本を身に付け、自らすすんで問題を追究し、深く考え判断する子供 ○感性に富み、ともに認め合い、思いやりがあり、奉仕の心を行 動にうつせる子供 ○心も体も健康で明るく、やり抜く心体力があり、すすんで運動に取り組む子供 ○自発性と英知を結集し、児童一人一人を大切にしてい愛情深く関わる教師 ○社会人として、教育公務員として、組織的に学校運営に関わる教師	
前年度までの本校の 現状	成果	ユニバーサルデザインの視点や個に応じた支援をすることで、学習活動における教職員の組織的な 取組ができた。 校庭遊びや体育館遊びを通して運動をする児童が多く運動の日常化、運動意欲向上につなげることが できた。	課題	学力向上について個の課題を分析し、児童一人一人に合った指導方法を確立するために、教職員で共通理解を図る。 教職員の働き方改革を更に推進し、校務の精選、効率化を行い、活力と愛情をもって児童と向き合う時間を作る。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学 習の基盤となる基礎・ 基本の確実な習得、家 庭学習習慣に対するの 学校の組織的な対応に よる取組の実施・充実	・授業UDの視点から、ど の教科においても授業中の 学習過程を可視化する。	・毎時間、学習の流れ について授業UD の視点からどの教科 においても授業中の 学習過程を可視化す るための提示を行っ ている。	100%		A	学校評価教員アンケート「毎時 間、学習の流れについて授業UD の視点からどの教科においても 授業中の学習過程を可視化する ための提示を行っている」肯定 的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本 校の教員は毎時間、学習の流れ について、授業中の学習過程を 視覚的に分かりやすくするため の提示を行っている」肯定的回 答95%以上					
		・週に1度の朝のモジュ ール学習で、確実に「ドリル パーク」に取り組む。国語 と算数について隔週で取り 組む。	・篠小タイムにおけ るドリルパークの活 用率100%。	95%		A	学校評価教員アンケート「小 タイムにおけるドリルパークの活 用率」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本 校の教員は、授業で一人一台端 末を活用し、情報活用能力を生 かしている」肯定的回答95%以 上					
		放課後補習などを通して、 一人一人の学力の定着を図 る。	・月2回以上の放課 後補習の実施。	70%		B	月2回以上の放課後補習とEDO スクの活用で実施率の向上を図 る。	A	学校関係者評価アンケート「本 校の教員は、朝学習・放課後補 習などを通して、一人一人の学 力の定着を図っている」肯定的 回答95%以上					
		・「学年×10分」の家庭 学習の実施を、保護者へも 周知・依頼する。	・学校評価児童アン ケート「学校の宿題 などの家庭学習を、 学年×10分程度、き ちんとやっています か。」の肯定的な回 答90%以上	77%		B	学校評価児童アンケート「学校 の宿題などの家庭学習を、学年 ×10分程度、きちんとやってい ますか。」の肯定的な回答75% 以上	A	学校関係者評価アンケート「本 校の児童は、家庭学習の習慣が 身に付いている」肯定的回答 95%以上					
			・国の学力調査「授 業時間以外の勉強時 間」→6年児童1時 間以上の回答割合 80%以	77%		B	国の学力調査「授業時間以外の 勉強時間」→6年児童 1時間以上の回答率は38.8% 30分以上1時間未満が38.8% 全校での教職員評価77%							
		・授業の導入で、前単元や 前時の学習内容を想起させ る。	・区の定着度調査→ 4、5年児童、30分 以上の回答割合80% 以上達成	88%		B	学校評価教員アンケート「授業 の導入で、前単元や前時の学習 内容を想起させる」肯定的回答 75%以上							
		・探究的活動の充実として 総合的な学習の時間を中心 に、各教科等の学習と関連 させた探究的活動を年間指 導計画に位置付ける。その 際、様々な分類の書籍を読 めるよう配慮する。	・探究的な学習とし て読書科が関わる学 習活動における成果 物（音声言語を含 む）を毎学期作成す る。	72%		B	学校評価教員アンケート「授業 の導入で、前単元や前時の学習 内容を想起させる」肯定的回答 85%以上	A	学校関係者評価アンケート「本 校は、本が好きな児童を育てる とともに、資料を活用して探究 的に調べる活動を大切にしてい る」肯定的回答95%以上					
		・読書活動の充実のため に、始業前の15分間の朝 読書を週2回を基本に実施 する。	・「読書や読書活動 を進んで行っていま すか。」の肯定的な 回答80%以上	73%		B	学校評価児童アンケート「読書 や読書活動を進んで行っていま すか。」の肯定的な回答70%以 上	A	学校関係者評価アンケート「本 校は、読書や読書活動を進んで 行っていますか」肯定的回答 95%以上					

体力向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週1回以上の全校運動遊びの実施	・学期始めの健康振り返りカード「体を動かして遊ぶ」の肯定的回答90%以上	100%		A	学校評価教員アンケート「毎週1回以上の全校運動遊びの実施」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「休み時間に校庭でのびのびと遊ぶ工夫をしたり、毎週クラス遊びの機会を設けて、児童の体力向上を図っている」肯定的回答95%以上					
		・学期に1回のなわ跳びweekの実施	・「体育や校庭遊びの日やクラス遊びなど、体をつかって運動していますか。」90%以上	94%		A	学校評価教員アンケート「学期に1回のなわ跳びweekの実施」肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、毎学期、全校での『なわ跳びweek』を行っている」肯定的回答95%以上					
共生社会の実現に向けた教育の推進	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・理解教育実施。	・各学年での理解教育実施率100%。	100%		A	年度内に理解教育実施率を100%にする。	B	学校関係者評価アンケート「本校は、かえて教室があることを理解させ、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、お互いの違いを理解した指導をしている」肯定的回答85%以上					
		・特別支援教室巡回指導教員と通常の学級担任との毎週の連携。特別支援教室専門員の巡回指導と通常の学級の観察記録の活用。 ・日本語指導員と担任との連携	・学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合ってますか。」の肯定的回答95%以上	90%		A	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合ってますか。」の肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、児童が自分と友達のそれぞれの良さや違いに気づき、協力し合ってますか」肯定的回答95%以上					
		・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介	100%		B	保護者会においての紹介はできたが、地域への紹介を今後実施することで、実施率の上昇を図る。	D	エンカレッジルームについては地域への理解が浸透していない為、保護者を含め周知していく。					
		・年間指導計画に基づいた副籍交流及び共同学習の実施 ・学校行事への参加の推進	・年間3回以上の共同学習の実施	82%		B	年度末までの副籍交流の実施により、実施率を100%にする。							
不登校・いじめ対応の充実	〇豊かな心の育成	・いつでもどこでも誰にでも挨拶ができる児童の育成	・「挨拶ができる」アンケート肯定的90%以上	87%		B	学校評価児童アンケート「学校内や登下校の時に、先生やお客様、出会う人、友達と『いつでも・どこでも・だれにでも』さわやかなあいさつと返事を自分からしていますか」の肯定的回答85%以上	B	学校関係者評価アンケート「本校は、『元気な挨拶、丁寧な言葉遣いを重点に、「いつでも・どこでも・だれにでも」さわやかな挨拶と返事が自分からできる子を育てている」肯定的回答85%以上					
	〇教育相談の強化	・スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携強化	・児童アンケート「悩みを聞いてくれますか。」90%以上	93%		A	学校評価児童アンケート「先生方は、あだなの悩みや相談事を聞いてくれていますか」の肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「保護者会、個人面談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している」肯定的回答95%以上					
		・いじめ対策委員会によるいじめの早期発見、情報共有、早期解決	・いじめ初期対応、未然防止により、解消率100%	100%		A	・いじめ初期対応、未然防止により、早期発見、情報共有、早期解決を図っている。	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、児童の間違った行動に対しては、きちんと指導している」肯定的回答95%以上					
	〇学校（園）ホームページの充実等	・各学年、専科で毎月3回以上日頃の教育活動の様子をホームページにて発信する。	・「ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」月3回～4回以上更新、行事の更新を行っている。	96%		A	学校評価教員アンケート「ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている」回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「学校だより・学年だより・ホームページで教育活動や児童の様子をお知らせしている」肯定的回答95%以上					

学校（園）の開かれた地域社会の実現	○学校（園）公開の実施・充実	・学校公開を年3回実施 ・保護者を年2回実施 ・個人面談を年2回実施 ・新一年生説明会を実施	・学校評価保護者アンケート「保護者会、個人面談（担任・専科教員など）、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している。」の肯定的回答90%	100%		A	学校公開や保護者会、個人面談は1学期に1回行うことができた。年度末までにそれぞれの回数を実施する。						
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会・地域教育推進会を毎学期実施。 ・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・学校評議員会を毎学期実施。地域教育推進会は2学期に実施。 ・年2回以上の実施。	100%		A	学校評議員会、地域教育推進会を2学期に実施し、年2回以上の実施する。						
特色ある教育の展開	○働き方改革の推進「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月2回の定時退勤日の設定	・全教職員の超過勤務時間について、月45時間以内。	70%		B	学校評価教員アンケート「全教職員の超過勤務時間について、月45時間以内」回答70%以上						
		・会議内容の精選	・会議45分以内。	88%		B	学校評価教員アンケート「会議45分以内」回答85%以上						
	○農園活動の充実農園の活用を通して、植物栽培の体験などを充実させ、感性を育む。	・理科や生活科、総合的な学習の時間等の指導計画に沿った栽培や観察を実施する。 ・全校朝会の校長講話で地域の自然についての関心を広げる。	・学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」の肯定的回答90%	79%		B	・学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」の肯定的回答79%						
	○食育・健康教育の推進	・学期はじめに生活習慣振り返りを行い、十分な睡眠をとる。 ・食育年間計画に沿って、食に関心をもたせる。 ・給食を通して食育を推進する。	・「9時までにねる。」「7時までに起きる。」の達成度80%以上達成	50%		C	「9時までに寝る」の平日3年生以下は30%、4年生以上は20%の達成率で学年が上がるにつれ達成することが難しい。「7時までに起きる」の平日3年生以上は80%達成できたが、1年生は75%、2年生は65%の達成率だった。						
		・地場産業、郷土料理、季節の料理を使った食育の充実	・給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させている。	100%		A	毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れている。今後も給食を通じた食育を行う。	A	学校関係者評価アンケート「給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させていますか」肯定的回答95%以上				